

オフィス子宮鏡手術認定医（通称：外来子宮鏡手術認定医）

Q & A

2024年4月1日

Q13.~15：4月30日追記

Q.16~18：5月10日追記

Q.19：5月23日追記

Q1. 認定対象となる「オフィス子宮鏡手術」とはどのような手術手技を指しますか。

A1. 主として日帰り手術で行われる①軟性鏡インターベンション②細径硬性子宮鏡手術③組織回収デバイス手術を指します。

電極通電による切除などの手術は入院でおこなわれるものと区別できないため現在のところ不可としております。

例)

①子宮鏡下選択卵管通水、スネアポリペクトミー、子宮鏡(補助)下子宮内膜生検または子宮内膜搔爬など

②細径硬性子宮鏡による子宮筋腫摘出術、子宮内膜ポリープ切除術、子宮中隔切除術、子宮内腔癒着切除（剥離）術、子宮内膜生検など（観察のみは不可、電極通電による切除を伴うものは不可とします）

③組織回収デバイスを用いた組織粉碎吸引法による子宮筋腫摘出術、子宮内膜ポリープ切除術、子宮中隔切除術、子宮内腔癒着切除（剥離）術、子宮内膜生検など（観察のみは不可、電極通電による切除を伴うものは不可とします）

Q2. 「オフィス子宮鏡手術認定医」と、日本産科婦人科内視鏡学会（JSGOE）認定「子宮鏡技術認定医」の異なる点を教えてください。

A2. JSGOE 認定「子宮鏡技術認定医」は、MEA、組織粉碎吸引法（シェーバーなど）を除く子宮鏡下子宮筋腫摘出術（長径 2cm 以上推奨）の動画（電極通電による）が審査対象となります。

「オフィス子宮鏡認定医」の認定対象手術手技は、Q1にあるように電極通電による切除術を認めておらず、審査対象手術手技が異なります。

Q3. JSGOE 認定「子宮鏡技術認定医」を取得していれば、「オフィス子宮鏡手術認定医」取得に際してアドバンテージはありますか。

A3. 本認定資格要件のうち、日本専門医機構認定産婦人科専門医、学会発表、論文発表が担保されていると見なされます。なお、JSGOE 認定「腹腔鏡技術認定医」、「ロボット手術技術認定医」はこの特例には該当しません。

Q4. 「オフィス子宮鏡手術認定医」の認定には研修が必要ですか。

A4. 現時点（2024 年）認定審査において、認定研修施設制度や研修期間を設定していません。申請（2024 年）時点で日本子宮鏡研究会に入会手続きが完了（入会金・年会費の支払い含む）していれば申請可能です。

Q5. 審査に動画は含まれますか。

A5. 現時点では、動画審査はありませんので含まれません。

Q6. 技術認定申請要件となっているオフィス子宮鏡手術経験数のカウントの方法について解説して下さい。

A6. オフィス子宮鏡手術経験数は、①軟性鏡インターベンション②細径硬性子宮鏡手術③組織回収デバイス手術のいずれか一つ以上の手術手技で、手術指導件数を含む総計 40 症例以上（そのうち総計 20 件以上は自ら主たる術者として手術を企画、施行し完遂したもの）の経験があれば申請可能です。

Q7. 技術認定申請要件となっている学会発表について解説して下さい。

A7. 本法人が開催する学術講演会、あるいは国内外内視鏡関連学会、および公益社団法人日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会が認め研修出席証明される都道府県レベル以上の関連学会において、筆頭演者として学会発表 1 件以上の子宮鏡に関する発表があるこ

とです。

Q 8. 技術認定申請要件となっている論文発表について解説して下さい。

A 8. 子宮鏡に関する論文（和文、英文を問わない）を、筆頭著者として査読の証明がある医学雑誌に発表していることです。申請時点で受諾ながら掲載がまだである場合は受諾証明を提出していただきます。

なお、学術要件は学会発表もしくは論文発表のいずれか1件以上であり、この学会発表や論文発表は技術認定制度委員会の審査により内容が適切であると認められたものでなければなりません。

Q 9. オフィス子宮鏡手術経験数、学会発表、論文発表は、日本子宮鏡研究会入会前あるいは日本専門医機構産婦人科専門医取得前の件数もカウントできますか。

A 9. 研修期間を設けていませんので、いずれの時期のものもカウントできます。

Q 1 0. 技術認定申請期間はいつですか。

A 1 0. 毎年5月1日より5月末日(期間内にサーバーへの書類アップロード完了)までで、審査は年1回です。

Q 1 1. 費用はいくらですか。

A 1 1. 新規申請審査料2万円、更新審査料1万円です。

Q 1 2. 1回申請したら更新はいつになりますか。

A 1 2. 5年ごとの更新となります。更新要件は別途定めます。詳しくは「日本子宮鏡研究会 技術認定制度規則」第5章 第19条をご確認ください。

以下 2024.4.30 追記

Q13. 論文の代替として、子宮鏡研究会主催のハンズオンセミナー受講は認められないでしょうか。

A13. 代替として認められません。

Q14. 子宮鏡に関するスポンサードセミナーは発表とみなして良いでしょうか。

A14. 講演料が発生しているものは「不可」とします。

Q15. 牽引糸がなくなり盲目的抜去が困難になった子宮内デバイス（ミレーナ、FD-1等）の抜去を外来子宮鏡にて実施しておりますが、手技実績に含まれるでしょうか。

また含まれる場合、疾患名・術式はどの様に記載するとよいでしょうか。

A15. 「疾患名：子宮内異物、術式：子宮鏡下異物除去術」として手技実績に入れて下さい。

以下 2024.5.10 追記

Q16. 現在、一般社団法人日本専門医機構認定産婦人科専門医ではなく、日本産婦人科学会産婦人科専門医のみを持っているのですが、申請は不可能でしょうか。

A16. 現時点（今年度）に関しては、日本産婦人科学会産婦人科専門医のみでの申請は可能です。あくまでも現時点での対応ということで、2025年度末以降に資格が消滅した後につきましては、更新・新規申請共に変更となる可能性があります。予めご了承ください。

Q17. 研修施設とは常勤の施設でしょうか。

非常勤の施設で行った手術の症例を登録可能予定ですが、もし常勤の施設のみでの登録の場合、研修施設には非常勤の施設なので記載はされませんが、問題ないでしょうか。

A17. 手術症例は非常勤でもカウント可とします。登録は常勤先のみです。

Q18. JSGOE 子宮鏡技術認定医取得済みのため、書類2と5は不要と考え、学会発表・抄録や論文の別冊は必要ないと考えておりました。

しかしながらJSGOE 子宮鏡技術認定医取得済みのためのチェックリストに抄録はついていますか、論文はついていますかの項があります。

JSGOE 子宮鏡技術認定医取得済みの場合もやはり必要なのでしょうか？

A18. 申し訳ございません。チェックリストに誤りがありましたため、修正をいたしました。学会発表・抄録や論文の別冊は必要ありませんが、JSGOE の認定証の写しの提出が必要となりますので、ご準備をお願いいたします。

以下 2024.5.23 追記

Q19. オフィス子宮鏡手術認定医の申請に必要な手術手技についてですが、子宮鏡補助下卵管鏡下卵管形成術は軟性鏡インターベンションに含めても良いのでしょうか？

A19. 子宮鏡補助下卵管鏡下卵管形成術の際に使用する子宮鏡手技はまだ一般的とはいえないのですが、当面軟性鏡インターベンションとしてカウントしていただいて構いません。ただし、20症例までといたします。